

日本地衣学会

No.35

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	ニュース.....	119
	第7回青空地衣教室(千葉県昭和の森公園)のご案内/地域活性化委員会	
	関東.....	119
	雑報.....	120
	仕事の合間に地衣めぐり - 北海道/安斉唯夫.....	120

ニュース News and Announcements

第7回青空地衣教室(千葉県昭和の森公園)のご案内

さあ、春です。

房総に地衣を探しにゆきましょう。

天気がよければ太平洋も見えることでしょう。

日時： 2004年4月11日(日曜日), 10:00(10:30)~15:00.雨天決行(荒天が確実な場合中止することがあります,判断に迷うときは下記連絡先まで問い合わせください。

場所： 千葉県千葉市緑区 昭和の森公園

内容： 関東周辺の低地で見られる代表的な地衣類を観察します。

講師： 原田浩先生(千葉県立中央博物館)

参加費： 500円(家族でも同額)

行程

10:00 JR外房線土気駅改札集合。「原色日本地衣植物図鑑」を抱えている人に声をかけてください。昭和の森公園まで20分程歩きますが、途中のコンビニエンスストアでお弁当購入が可能です。第二入口まで徒歩約20分。

10:30 昭和の森公園第二入口(第二駐車場),第二サイクリングセンター前集合。

10:30~15:00 昼色をはさんで,昭和の森公園内で地衣類を観察します。

15:00 昭和の森公園で解散。

持ち物： 雨具を忘れずに。テキストとして「校庭のコケ(全国農村教育協会発行¥1905)を使用します。10~20倍のルーペを用意されるといっそう楽しめます。

申し込み： 以下の世話人まで,連絡先,利用される交通機関をお知らせください。

安斉唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp,

Fax03-6780-8818, 電話ゼルグプランニング

044-900-8818

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp



当日の緊急連絡先

安斉唯夫携帯電話 0902-759-7872

主催： 日本地衣学会 地域活性化委員会 関東

参考： JRは下記の電車が便利です

千葉駅 9：32（外房線安房鴨川行き） 土気駅 9：

52

千葉駅 9：11（外房線成東行き） 土気駅 9：33

東京駅 8：17（総武快速線地下3番ホーム上総一ノ宮行） 土気駅 9：20（東京駅から始発直通）

（安斉唯夫・木下靖浩：地域活性化委員会関東）

雑報 Miscellanea

仕事の合間に地衣めぐり—北海道

旅の幕開け

森吉山で観察会の一行と別れた後、津軽海峡を渡った私は一人札幌へ向けて車を走らせた。この先2ヶ月間にわたる環境調査の幕開けである。現場は札幌近郊、国有林の奥深くにあり、どんな地衣類にめぐりあえるのか、仕事の不安が少しと地衣類への大きな期待が胸を息苦しくさせる。

札幌へ向かう定山溪国道はダケカンバの生育する亜高山帯を通過する。高速道路のような国道を下っていると、視野の片隅をコケ庭が飛び去った。確信と期待。前方に、また緑のカーペットが現れる。思い切って路側に乗り上げ、駐車する。

人工的な斜面を法面（のりめん）と呼ぶが、樹林との間にできたならかな法面は一面の蘚苔類と地衣類である。ヤグラの重なりが日差しを返し、深い緑の苔に置かれた陶器のようである。若い写真仲間のSさんに蘚苔類はガラス細工で地衣類は焼き物のようだ、と教えられたのはつい最近のことだが、俯瞰すれば芝生の庭園に囲

まれた野外彫刻園のようであった。

中山峠には3種のクマがいる

中山峠から林内に奥深く入ると、サルオガセやカブトゴケといった大型の地衣類が大量に着生している。しかし、キウメノキゴケは吹きさらしの林道脇で見ただけで、林内では目にしなかった。とくに風通しのよい明るい環境を好む地衣なのだろうか。あるいは、人気のあるところでしか生活できない寂しがり屋かもしれない。

調査で伐倒した樹木は記録を残した後、切り刻んで廃棄することになる。不幸にして落とされてしまった地衣類を、私はせっせと集めた。時には、樹高を記録する合間に手を伸ばしてヒロハカラタチゴケを集め、また時には昼休みを利用して転がった幹や枝を鋸で切り分けた。見ていたチェーンソーの名人が「コケを集めてる？コケ！」とこいつつ、地衣付きの見事な幹円板を切り分けてくれることもしばしばだった。こうして集めた地衣の一部は私の標本になり、多くは箱詰めにして次々と大学に送った。

若いダケカンバ林では細い枝に着く大小のオリーブゴケが目についた。滑らかなカンバの樹皮に最初に着生できるのはオリーブゴケのようである。次に、オリーブゴケの中央にカラクサゴケが着くようである。カラクサゴケは滑らかな木肌に単独で着生することができないように見える。枝の年輪を数えればオリーブゴケの着生時期、成長量が判る、と思って小枝を宿に運んだが、断面を見て驚いた。数える気にもならない密集した年輪であった。



図1. 中山峠の庭園風コケ生育地。

林道の真ん中に糞を残すヒグマは、そこが自分の縄張りであることを主張しているのだろう。秋が深まるにつれ、周囲をみる目に緊張がはりつめる。すでに負けている。できれば、車の中から後ろ姿を目撃する程度にしたい、でも見たい。曇の日、背丈を超えるクマイザサの中で方形枠を設置していたときは、怪しげな気配が充満していた。このときばかりは地元の方に分けてもらった爆竹を鳴らしたが、音はむなしく拡散していった。

ヒグマとクマイザサとクマゲラ、どれも強い記憶を残したクマである。



図 2. 永山岳の岩礫斜面。

愛山溪から永山岳へ

朝方、腰を激痛が襲った。救急隊員が多分尿管結石だろうと言う。そんなことはないだろうと思ったが、地質出身の私は石を割りつつ、膀胱で石を育てていたことになる。

昼前には痛みがとれ、医者への許可もいただき、仕事仲間のKさんに運転を託して観察会の愛山溪に向かった。

宿の背後に上川公園がある。斜面にはキウメノキゴケ、ヤマヒコノリの着く樹木が配され、夕暮れの中、大雪山を遠くに望んで明日の期待はいやが応にもたかまってくる。

翌日、標高1360m付近で先生方と別れ、数人でさらに上を目指す。周囲は高山帯の様相を見せはじめている。深くえぐれた登山道脇の火山岩に上がり背伸びをすると、露岩が累々と積み重なった斜面がみえる。これだ、また岩礫斜面だ。北八ヶ岳の山中に桜谷という今は人々から忘れられた場所があるが、地衣仲間のNさんに案内されて訪れた日の記憶が鮮明によみがえる。背丈ほどもある岩の隙間には空洞が開き、樹木も土壌も乏しい荒々しい地形である。周氷河地形や火山地形として形成された岩礫斜面は早池峰山や金峰山に大規模な存在が知られているが、ここは火山性の岩礫斜面ということだろう。桜谷もそうであったように、こうした場所は樹木や草本がほとんど生育せず、地衣類が優占する特異な景観をみせている。かつては高山帯の最も高標高域に地衣帯という植生域が区分されていたが、地衣類の生育で特徴づけられるこうした地形は魅力的である。

ここで私は2種類の地衣類を初めて目にすることができた。Yさんに自慢すると、ナギナタゴケでしょ、ミ

ヤマウラミゴケでしょ、と素っ気無い返事であった。経験は感動を失わせるものなのか、時として知識は人を鈍感にさせる、ケツ、などと思い、自慢するはずが悔しさに変質してしまった。

この日最後にたどり着いた地衣の楽園で過ごせる時間はあまりにも短かった。また訪れたい。見下ると、神々の庭のような田代がひろがっていた。

ニセコの休日

岩盤むき出しの痩せ尾根につけられた一直線に上る階段は迫力があり、ちょっと観光、という来訪者の侵入を拒んでいる。これを越えれば快適な山道がつづく。保全生態学のKさんが植物を教えてくれる。葉の裏返っているウラハグサ、香りも色彩も爽やかなシラタマノキ、そして林床に散らばるサファイヤはルリソウ。花々に目を奪われながら、あるいは、ウグイスゴケであろうか地衣の写真を撮りながら、山道をたどる。ちょうど昼時にたどりついた鞍部は、植生もまばらな荒涼とした地であった。硫黄の転がる岩の陰や灌木の根元にイオウゴケやオニハナゴケであろうか、立派な地衣が生きている。パンを片手にあっちの斜面、こっこの斜面と飛び回り、三脚を構えた。ニセコの空はどこまでも青かった。

支笏湖巨木の森

カメラを隠すようにしゃがみ込む姿は、遠目にもコケを写していると直ぐに見破られる。近づけば、怪しいおっさんとしか見えないだろうと本人曰く蘚苔類のD先生。苔の洞門は崩壊のために入口までしか行くことが出来ない。埃っぽいエビゴケの写真を撮る気にもなれず、



図 3. 北大植物園のブナ .

巨木の森へ向かう . 林内には巨木が林立し , これが北海道の本来の森林か , と感動する . 会う人もなくエビラゴケやカプトゴケの写真を撮りながら奥へと進むと , 次第に林内が荒れてくる . 太い倒木を乗り越えながら , 背丈を超えるササをかきわけ , いつのまにかキャンプ場に着いた . あんたどこから来たんだと , 閉鎖されたキャンプ場の管理人にたずねられた . 写真を撮りながらここまで来てしまった , と話すと , 災害前の森の様子を話してくれた . この夏 , キャンプ場を襲った強風で巨木がテントを押しつぶし , 一家が亡くなったということである .

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター
とも , 投稿先は :

原田 浩 . 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館 . Fax 043-266-2481.
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

(原田浩 : 編集委員長)

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は , 許諾を受けてください . 詳細は本誌31号110ページに .

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication,

札幌の地衣は本屋が穴場

札幌市内は樹木が多く 山も間近に迫る環境の良い都市のように見える . しかし , 期待したほどには地衣類の姿を見かけない . 北大植物園には 2 回訪れた . ここには直径 1m を超えるブナがある . しかし , このブナに地衣はいない . 衣服をまとっていないブナの幹肌は灰色で , 冬の日本海の空のように寒々としている . 何故 , 北大植物園のブナには地衣類が着生していないのだろうか . 黒煙を吐いて走る車や , 雪解けの季節の粉塵 , 昔は冬季の煤煙もすごかっただろう , そんな背景が思い浮かぶ .

市内の書店で植物の古名やアイヌ名が載っている書物に出会った . 鮑苔は地衣のアワビゴケだろうか , あるいは蘚苔類であろうか . サルオガセは松羅ともいわれるが , 霧藻ともいわれ , アイヌ名ではニレク , ニレキ , ニイチワラとされている . ハナゴケは白苔 (しらごけ) , 白竜鬚 (はくりょうしゅ) となるとムシゴケが思い浮かぶが 「しらごけ」ともいわれると蘚苔類の世界に入り込みそうである .

地衣類の和名には身体の一部や疾患の症状をつけたものが多い . イワアバタゴケ , ササクレマタゴケ , チブサゴケ . これでは , とても電車の中で地衣類の話はできない . かわいい我が子にどうして病気の名前を付けるのか . あっと , これは帰京してからの話 . 現実に戻ったところでこの報告を終わります .

(安齊唯夫 : ゼルグプランニング)

you or your organization must obtain permission. For details, see no. 31, p. 110 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 35号

発行日 : 2004年 3月25日

編集 : 原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所 : 日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内